

第50回中国四国地区大学図書館研究集会アンケート集計結果

	鳥取大学附属図書館	島根大学附属図書館	岡山大学附属図書館	広島大学図書館	山口大学図書館	徳島大学附属図書館	
1-1-1	電子資料(電子ジャーナル/DB/eBook等)の選定はどのように行っていますか？	利用者アンケートや学部からの希望を参考に、図書館が案を作成し、電子図書館委員会で検討し、図書館委員会で決定。	全学経費で導入する電子資料については、専門委員会を設け議論した上、運営委員会で決定した(第四期学術情報基盤整備計画(H22-24))。検討にあたっては教員によるWebアンケート等を参考とした。	研究科代表の教員によるワーキンググループを設置し、全学での共通性の高いタイトルをワーキンググループで、その他のタイトルを各研究科で選定。	全学共用EJ/DB等は、各部署の希望調査結果等を基準に照らし合わせて図書館資料選定会議で選定。 教育用EJ/DB等は図書館資料選定会議下の専門部会で選定。	電子ジャーナル・コンソーシアム形成誌及びデータベースについて、本学では、3キャンパスどこからでも、また24時間いつでもアクセスできるものを基本として選定している。なお、これを「基盤雑誌1」と称し共通経費化している。	EJとDBは雑誌の購読調査を含む、パッケージ・全学的なDBについては図書館運営委員会で協議。e-Bookは図書選定委員会で審議
1-1-2	選定基準はありますか？ある場合は、お構いなければ添付をお願いします。	いいえ	いいえ	いいえ	はい	いいえ	はい
1-1-3	選定の際に問題になる点は何ですか？	価格、利用度、分野	トライアル等は実施しているが、使用後の感想や導入希望も含め、利用者からの反応が薄い。また、アンケート等でフィードバックを促す仕組みも十分でない。	・予算総額が未定であること ・研究科ごとの選対枠をどのように設定するか	1-1-1-1のシステムは今年度からのものなので、まずその趣旨を各部署・教員等に理解・徹底させることが必要。	主として、中長期的に維持できるかどうかの、値上がり見込みを含めた経費の確保	研究支援のためのパッケージ維持や大学全体で使うDBの予算獲得が難しい。要求金額が増加し続けており、共通経費要求や各部署、財務課への説明など図書館の負担が大きくなっている。
1-1-4	電子資料の提供について、何かご意見等ありましたらご記入ください。	学部、分野によって利用頻度に差があり、不公平感を持たれないように考慮する必要がある。					利用者の利便性や速報性などサービスが向上した。契約業者が変わると安定的な利用(接続)に影響がでることがある。中国四国地区で選定方法や契約方法などを情報交換していただけは、非常に参考になっている。
1-2-1	研究者向けに図書館活用PRを行っていますか？	いいえ	はい	はい	はい	はい	はい
1-2-2	行っている場合、その内容をご教えてください。		①毎年、新任教員向けの図書館説明会を開催 ②学部単位で図書館資料整備・サービスPR及び改善に関する懇談会開催(平成20年度一館長、課長、各業務担当者出席一業務改善材料) ③広報誌及びホームページから活用情報提供 概要、年報、図書館報、ニュースレターLiMe(本館)、INfoAccess(医学分館) ④学術情報リテラシーテキストを毎年改訂発行、全教員に配布	新任教員向けオリエンテーションの実施	新任教員向け図書館利用案内の実施、図書館ホームページ上での「教員用図書館利用案内」で、様々な教員向けサービスをPRしている	◆ 山大リンクやサーチ等の情報サービス系利用法を個別チラシやメルマガで周知 ◆ Webサービス登録時に30分程度の個別ガイダンスを実施	図書館ホームページに教員ポータルを作っている。
1-2-3	研究者向けの図書館活用PRについて、何かご意見等ありましたらご記入ください。		・図書館と教員とのコミュニケーションをはかるためWebアンケートの他、定期的に意見交換する機会が必要。 ・授業と連携した図書館サービスのためシラバス連携OPACや授業の中で図書館活用サポート等				新任教員向けガイダンス実施の必要性。
1-3-1	学術機関リポジトリを構築していますか？	はい	はい	はい	はい	はい	いいえ
1-3-2	構築されている場合、どういったコンテンツを収集されていますか？	紀要論文、学位論文、雑誌論文	学術雑誌論文・テクニカルレポート・学内発行紀要・学位論文・学術関連会議資料・学術関連会議発表資料・学術関連会議録・図書	紀要論文、学術雑誌掲載論文、学位論文要旨など	学術雑誌論文、紀要論文、学位論文、会議発表資料、科研費報告書、教材、単行書ほか	収集方針は、 http://petit.libraryamaguchi-u.ac.jp/infolib/www/help/doc/policy.html のとおりであるが、現状の登録資料は、論文、会議発表用資料、会議発表論文、図書、研究報告書、教材、その他となっている。	
1-3-3	学術機関リポジトリに関して貴館の課題をご教えてください。	コンテンツの充実	学会等の国内発表論文について公開できないものが多い。一次データの収集に課題がある。学位論文の収集方法の検討。	・運営体制の維持と担当職員の養成 ・事業とシステムの多様化(自機関、共同、遺跡)への対応 ・研究者情報DBとの連携	コンテンツの収集に大きく労力がさかれているため今後の事業継続の為に、大学として自主的もしくは強制的にコンテンツ登録がなされるように考えていかなければならないと思う。	◆ 担当者の育成 ◆ 教員への効果的な広報 ◆ 教員DBの連携に伴う効率的な運用	平成21年度に立ち上げ予定。
1-3-4	学術機関リポジトリについて、何かご意見等ありましたらご記入ください。	学術機関リポジトリは、学術機関が本文を無料で公開するシステムであると認識していたが、本文がないデータもあり残念である。	特に人文系の研究基盤となるサブジェクトリポジトリの構築が必要ではないか。		中国四国地区は共同リポジトリも3県あり、図書館コミュニティとしてリポジトリへの自助努力を行っていると思う。今後は学位論文・助成論文の登録義務化など、国としてリポジトリコンテンツへの制度化が必要ではないかと思う。		

第50回中国四国地区大学図書館研究集会アンケート集計結果

	鳴門教育大学附属図書館	香川大学図書館	愛媛大学図書館	高知大学総合情報センター(図書館)	海上保安大学校図書館	水産大学校	島根県立大学メディアセンター
1-1-1	毎年、附属図書館運営委員会で議題として討議される。	全学共通経費で拠出する電子ジャーナル等については、電子ジャーナル検討委員会で選定。図書館予算のものは、図書館会議。それ以外は受益者負担	電子ジャーナルパッケージ(一部のDBを含む)については、大学全体の整備計画(3年毎)により選定。ただし、教員が希望する個別の電子ジャーナルは、教員の個人経費で整備。eBookについては図書館選書担当者・図書収集事務委員会等で検討するが、毎年購入するわけではない。	電子ジャーナル・DBは全学的なアンケートを実施して、その結果を基に運営委員会で選定。eBookについては図書館職員が選定。	電子資料の提供は行っていない。	特にありません。	教員の意向を調査するとともに、3キャンパスのメディアセンター運営委員会において契約資料を決定する。
1-1-2	いいえ	はい	いいえ	いいえ		いいえ	いいえ
1-1-3	値上げと予算。	費用対効果	eBook:通常の図書と同様に、学生の学習に必要な物かどうか。	予算、利用頻度、費用対効果、選定分野			契約金額の高騰
1-1-4			Wiley社とBlackwell社が合併したが、この電子ジャーナルパッケージは、複数の業者が取り扱えるため、金額により政府調達契約をするように事務局から求められる大学があるかと思いますがその動向が知りたい。	限られた予算の中、異なる分野の要求・需要に対する提供に苦慮している。各館におけるとりまどめの工夫を今後の参考にさせていただきたい。			
1-2-1	はい	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
1-2-2	①図書館Webページでのお知らせ ②学園だより「図書館だより」年1回発行	新しく使えるようになったサービスやツールについての説明パンフレットの配布					
1-2-3				広報としてはポスター・グループウェア掲示板・HP等に行っているが、特に研究者にターゲットを絞った広報はしていない。研究者が図書館のサービスについてよく理解していないということ間々あり、今後ターゲットを絞った広報の必要性を感じている。			
1-3-1	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ
1-3-2		紀要論文、学術論文、学位論文、会議発表論文、会議発表用資料、単行図書など		紀要論文、学術雑誌論文、学位論文、科学研究費報告			
1-3-3	まだどこが担当するか決まっていない。	今後継続していくための人員も含めたシステム作りシステムの見直し		コンテンツの充実、教員への広報		学内で学術機関リポジトリについての必要性がまだ共有されていない。	構築に向けての事前準備において、3キャンパスの足並みがそろわない。教員の協力が得られるという保証がない。
1-3-4							

第50回中国四国地区大学図書館研究集会アンケート集計結果

	岡山県立大学附属図書館	尾道大学附属図書館	県立広島大学学術情報センター図書館	広島市立大学附属図書館	下関市立大学附属図書館	山口県立大学附属図書館	香川県立保健医療大学図書館
1-1-1	教員が選定(購洋雑誌からの移行等)	職員が選定し、図書委員会に提案・承認	平成19年度に運営委員会に検討部会を設置して購読雑誌、DB等の全体的な見直しを行った。その結果、冊子体から電子ジャーナルへの移行を積極的に推進することとなり、3キャンパスでの共通利用・費用対効果の面から、電子ジャーナル化が有効なものから電子ジャーナルに移行している。eBookは導入していない。	図書館や各学部で希望が出たものについて、図書館運営委員会で協議し、決定している。	過去に契約した電子ジャーナルで利用があるものを継続して利用しています。	各学部の教育・研究に見合うものを選定している。	教員の希望や意見なども参考に図書委員会で決定する
1-1-2	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
1-1-3		導入価格(費用対効果)	予算の確保	予算		第一は価格とその年度毎の上昇率。また、分野のかたより。	1. 価格 2. 分野に偏りがいないか
1-1-4	特になし						
1-2-1	はい	いいえ	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ
1-2-2	図書館の利用案内、電子ジャーナルの利用講習会など			データベースのガイダンスを実施している。		館報でのサービス紹介。学内MLでの新サービス紹介など。	
1-2-3	特になし						
1-3-1	いいえ	はい	はい	はい	いいえ	はい	いいえ
1-3-2		紀要論文・教員と学生との共同出版物・雑誌掲載論文など	紀要等学内刊行物、教員・学生著作物等を対象としているが、現在登録状況は紀要のみ	学内の教育研究成果物は基本的に全て収集対象としている。		現状、紀要を中心とし、今年度学位論文も加えた。	
1-3-3		教員に対するPRおよびコンテンツ収集の拡大	・研究者の自発的なコンテンツ提供 ・教員への広報 ・作業人員の確保 ・職員のスキルアップ	定期的に生産される成果物(博士論文、科研報告書等)について、自動的に収集できる体制づくりが課題である。	著作権の許諾。	学術雑誌等、学外で発表された本学教員の論文等収集と格納するコンテンツの範囲の検討。許諾を得るまでの手間。	
1-3-4	特になし						

共同リポジトリに参加

構築している機関に参加している

第50回中国四国地区大学図書館研究集会アンケート集計結果

	愛媛県立医療技術大学図書館	高知女子大学総合情報センター図書館	鳥取環境大学情報メディアセンター	岡山学院大学・岡山短期大学図書館	岡山商科大学附属図書館	岡山理科大学図書館	川崎医科大学附属図書館
1-1-1	図書委員会で諮っている。	DB及び電子ジャーナルは、総合情報センター運営委員会において、導入の可否の決定を行います。今年度から洋雑誌分の導入を行います。eBOOKについても、同様の決定方法になると思いますが、導入はまだです。	担当課で選定・考察し、委員会(教員が委員の運営委員会)にて協議し決定する	行っていない	教員からの希望により、その教員が所属する学部教授会で提案され検討した後、図書館運営委員会で審議される。	電子ジャーナルとDBは、学内の会議に諮って選定(全分野にわたるDBは図書館で選定)。eBookは図書館で選定。	電子ジャーナル;教室からの希望を図書館運営委員会で協議して決定する。 DB;図書館運営委員会で協議して決定する。 eBook;購入実績がない。
1-1-2	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
1-1-3	内容、価格等。	今回、電子ジャーナルとして、洋雑誌データを購入するためには、予算が減少する中での決定であるため、新規購入でなく、既存予算の中でのスクラップ&ビルド方式で検討せざるを得ないこと。	費用及び学内での利用ニーズ		学部学生に必要なか、教員の研究に必要な資料なのか。	経費	予算
1-1-4		今回が、大規模な購入方式であるため、本学にとって適正な雑誌となっているかどうかは、確認はできにくく、今後、導入の方法を一層検討する必要がある。				海外の電子ジャーナル・DBは毎年値上がりがあり予算の確保が問題となります。	
1-2-1	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
1-2-2					研究者向けにはしていないが、学生向けにPRとして図書館で自作のポスターを掲示している。		
1-2-3		重要な情報については、総合情報センター運営委員会で決定したうえで、図書館会で各学部の委員が学部で広報するという方式である。積極的なPRが行われていない現状です。					
1-3-1	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
1-3-2							
1-3-3	経済的にも人的にも余裕がないため、単独での構築は難しい。		取組まねばならない課題の一つとしては位置付けている			サーバーの導入や維持にかかる経費。 運用知識の習得。 収録コンテンツの検討。	
1-3-4		必要性は感じていますが、大学の予算が減少するなかで、委託経費の捻出も難しい現状です。大学教員の属人的な能力に頼る現状では、ソフト構築の糸口も見出せない状況である。					

第50回中国四国地区大学図書館研究集会アンケート集計結果

	川崎医療福祉大学附属図書館	吉備国際大学附属図書館	倉敷芸術科学大学図書館	くらしき作陽大学	山陽学園大学図書館	就実大学図書館	中国学園図書館
1-1-1	図書館運営委員会に諮る。	利用要望・利用状況・予算面を考慮に入れて選定を行っている。	電子ジャーナルについては、洋雑誌(冊子体)購読により、EJにアクセスできるもののみ利用となっています。また、今年度より図書館担当者の交替があり、現在採用しているDBをどのように選定したか詳細については回答できません。	当学部の学部学科の、学習内容に沿ったもの、必要なもの	現在はずでに購入している冊子体のもので、電子ジャーナル化されたもののみ購入している	教員による希望一学科会議一図書委員会で選定	未導入 検討中
1-1-2	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ
1-1-3	価格。	予算の確保		内容、利用の見込み、金額	価格と利用頻度		
1-1-4			特にありません。				
1-2-1	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい
1-2-2		利用促進ポスター掲示・図書館だよりの発行・利用手引の作成		年度初め、新任の教員に、教職員利用の手引きを配布し、口頭でも説明。年度初めの図書委員会で、委員の先生方に、定期的な図書館の巡回、利用をお願いする。など、基本的なことのみ。特にPRと呼べることは行っていない。			『教職員のための図書館の菜』 その他パンフレット等配布
1-2-3			特にありません。				
1-3-1	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい
1-3-2							紀要論文
1-3-3	大学全体として取り組む事業としての認識、その中の図書館の位置づけ等、現段階では、構築へ向けての具体的な方策が見当たらない。	人員確保・予算確保	特にありません。	日常業務プラスアルファの作業時間の確保、および、職員のスキルが追いついていない。	詳しい職員がいない	教員の理解がなかなか得られないこと、職員の能力と労力がないこと。	今後集録するコンテンツの種類 学内外へのPR
1-3-4			特にありません。	昨今の流れを見て必要性を感じているが、上述のような人的要因で取り組めるような状態ではない。長期計画を立て、それを行えるだけの経験ある館員の育成が必要であると痛感している。			岡山共同リポジトリに参加していますが、小規模で系列校も持たない当館にとっては有り難いシステムです。

第50回中国四国地区大学図書館研究集会アンケート集計結果

	ノートルダム清心女子大学附属図書館	美作大学附属図書館	環太平洋大学附属図書館	広島文化学園大学図書館	日本赤十字広島看護大学	比治山大学図書館	広島経済大学図書館
1-1-1	教員の希望、アンケートに基づいている	電子資料リストを図書館運営委員から各学科に持ち帰り検討してもらい、図書館運営委員会が決めていく。	本学の学部・学科に相応しいコンテンツを教員が選定	教員からの希望	図書委員会	学科からの要望	電子ジャーナル:これまで購入していた雑誌を含むことからEBSCOを導入。 DB:まずトライアルで教員や学生の反応を確かめ、反応が良ければ導入。 eBook:現在はGaleのレファレンスブックのみ導入。教員からの要望と図書館側の電子化への意識が合致したため導入。
1-1-2	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
1-1-3	選定基準のルールづくり	予算と学科ごとのリテラシー教育への適応性	内容と価格	利用度が測りにくい		価格と利用頻度	費用対効果
1-1-4							それぞれのプラットフォームがばらばらのため、提供方法が難しい。
1-2-1	いいえ	いいえ	いいえ	はい	いいえ	いいえ	はい
1-2-2				データベースの利用案内、新規学術雑誌の案内など			新着学術雑誌の目次をメールで送るコンテンツサービス
1-2-3			今後取り組む必要があると考えます。				無し
1-3-1	いいえ	いいえ	はい	はい	はい	いいえ	はい
1-3-2			紀要のみです。	紀要、学会発表論文、学術雑誌論文、報告集抄録、科研費報告書	紀要、科研費報告書		大学紀要、叢書
1-3-3	紀要等を発行している担当部署や教員と進めたいかなければならない事業であるため、なかなか話が進まない	予算と人員の確保 システムの必要性に関して学内のコンセンサスを得ること	岡山大学にリーダーシップを取っていただいで構築しております。学内PR等必要かと思いません。	職員が最低限の中で、いかにリポジット業務を兼務するか	紀要以外のコンテンツを収集すること。今年度は、研究者リストを作成し、研究者へ個別にコンテンツの依頼をしていきたい。		継続的なコンテンツの収集と、それを可能にするための人員体制の維持。
1-3-4						広島県共同リポジットに参加しておりますので、自館でのリポジットは考えておりません。	今後、教員が各自でコンテンツをアップできるようなシステムの構築が必要になると考えている。

第50回中国四国地区大学図書館研究集会アンケート集計結果

	広島工業大学附属図書館	広島国際大学図書館	広島国際学院大学図書館	広島修道大学図書館	広島女学院大学図書館	広島文教女子大学	福山大学附属図書館
1-1-1	教員からの希望、業者の推薦、洋雑誌からの切り替え	電子ジャーナル:教員選定 DB:教員および図書館員選定	電子資料は取り入れていない	各学部/学科/専攻のグループ会議等が必要な資料について話し合い、そのとりまとめを図書委員会で行い決めています。	業者のカタログを参考にしたり、研究会で教えていただいたものについて検討し、利用書の動向や利用頻度、金額など判断して決定する。	専任職員で選定後、図書館委員会で検討します。(トライアル可能なものについてはトライアルを行った後に検討します。)	図書館でトライアルを実施しており、選定は学部・学科に委ねている。
1-1-2	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
1-1-3	バックファイルの閲覧の信頼性、予算	利用頻度、予算		電子ジャーナル購入にあたり、図書館予算だけではカバー出来ず、各、学部/学科の予算計上等で補填しないと経費的に賸えなくなっている。	金額と利用頻度、利用者に適した内容かどうか。	選定前に、教員(図書委員)からの意見・要望等を券集しますが、ほとんど出てこないことが挙げられます。	予算・利用状況の把握
1-1-4	—			先生方の各研究分野に貢献出来る資料を揃えられるよう、情報収集しながら、取り次ぎ業者さんとも綿密に情報交換を行っている。	効果的に利用してもらうにはどうしたら良いか、悩む。	特にありません。	特に無し
1-2-1	いいえ	はい	いいえ	はい	はい	はい	いいえ
1-2-2	—	データベース利用教育 1ヶ月ごとに更新するエレベータパネルでの広報(対象は教職員、学生)		ジャーナルのトライアルの際は、必ず講習会を開催し、案内している。	新しい情報がある場合、メール等で全教員に案内する。HPでも案内する。	電子掲示板や学内メール等を通じて、見計らい本のリストやDBのトライアル情報を流して案内を行っています。	新企画があれば、教員全員のメール連絡を行っている。
1-2-3	—				実際にそれらの情報を活用して貰えているか不安。	上記PRに対してのレスポンスがほとんどありませんので、違った方法を模索しています。他館の状況が知りたいです。	特に無し
1-3-1	はい	はい	はい	いいえ	はい	はい	いいえ
1-3-2	主に紀要	紀要、学術雑誌論文	学内紀要論文		本学及び本学院の出版物、及び関連のある出版物(著者に許諾を得て公開)。出版社発行の学術論文も含む学術論文、及び図書。博士論文・修士論文等。	共同リポジトリに参画させていただいています。現在のところ、紀要を中心とした雑誌類と、本学発行研究書といった類のものです。	学部の担当教員によりCINiiを利用して学内発行の紀要を掲載中である。
1-3-3	コンテンツ収集	コンテンツ収集が難しい。研究者の理解および著作権の許諾が得難い。また担当が他業務と兼務のためリポジトリ構築に割ける時間も乏しい。	投稿論文数を増やす	紀要の公開を担当している部局が図書館以外のため、リポジトリ構築のためのコンセンサスが取りにくいこと。	教員が各学会で発表されたものも収集したいが、学会の許諾などの問題があり公開できないものもある。	著作権の許諾作業の継続と、全学教員への広報と活用です。	特に無し
1-3-4	—				各大学でそれぞれ構築するよりも、CINiiの中でまとめたほうが良いように思う。CINiiでは機関リポとしてリンクしてあるが、利用者にとっては2度手間のように思う。Niiの容量の問題等あると思われませんが将来的には一本化が望ましいように思う。	もし共同運営が困難になった場合、単独館での構築が難しいので、その点が不安材料となっていますが、現在の共同体制に大賛助されています。	特に無し

第50回中国四国地区大学図書館研究集会アンケート集計結果

	安田女子大学図書館	近畿大学工学部図書館	東重大学附属図書館	徳山大学図書館	梅光学院大学図書館	山口福祉文化大学附属図書館	四国大学附属図書館
1-1-1	学部学科より予算として計上	ほとんどのものについて近畿大学中央図書館(東大阪市)が選定を行っているため不明。学部独自で契約していた電子資料等は、利用がありそうなものを選定。	利用者の要望に応じて適宜	図書委員会で選定	各学部学科図書委員に選定をお願いしている。	購入していない	PULG等の状況を見ながら、図書館側で原案を策定している。
1-1-2	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい		はい
1-1-3	導入して研究成果や学生の利用が多くなるのか		内容、利用料金		予算に見合ったパッケージ内に、利用したい希望の雑誌があるかどうか。		費用対効果。
1-1-4	冊子体と電子資料の提供方法が異なるため利用者サービスが複雑化して複雑になってきた	高価な電子資料を導入しても、利用が少ないものもある。どのような電子資料があるのかを積極的に宣伝する必要があると思う。			特にありません。		特にありません
1-2-1	はい	いいえ	いいえ	いいえ	はい	いいえ	はい
1-2-2	学内掲示板(電子掲示板)やホームページ、パンフレット配布				電子ジャーナルの提供。CiNiiやリポジトリの活用推進。		逐次発行している「らいぶらりーゆーず」を配布したり、e-mailで専門分野資料等の必要度を照会している。
1-2-3	研究者に向けての利用(操作)ガイダンスの実施をした方がよいと思う	研究者も他のことで忙しく、こちらから一方的にPRしたのではなかなか見ていただけないのが現状なので、興味を持っていただけるようなPR方法があればぜひ教えていただきたいです。			特にありません。		特にありません。
1-3-1	いいえ	※中央図書館で構築	いいえ	いいえ	はい	いいえ	いいえ
1-3-2		現在のところは、紀要・研究報告			学内紀要。		
1-3-3	今年度中には機関リポジトリへの対応方針が明確になる。現在、学長諮問のワーキンググループが設置されている。		独自での構築が困難なので、他大学との共同リポジトリに参加する予定である。現在学内で準備を進めている。	公開の許諾を得る	現在は、「山口県大学共同機関リポジトリ」に参加している。今後の独自性やコンテンツの拡大が課題である。	山口県大学共同リポジトリに参加しているが、学内にリポジトリを浸透させること、公開許諾に関してきちんと調整していくことが必要となる。	
1-3-4	オープンアクセスとなるため、学部学科横断的な組織が必要と思われる				学内での経費の捻出が問題。図書館単体で行うのではなく、県や地域の大学コンソーシアム事業になるように国や自治体に協力を願いたい。		

第50回中国四国地区大学図書館研究集会アンケート集計結果

	徳島文理大学図書館	四国学院大学図書館	高松大学附属図書館	聖カトリナ大学附属図書館	松山大学図書館	松山東雲女子大学・松山東雲短期大学図書館	高知工科大学附属情報図書館
1-1-1	各学部の図書委員が、購入希望分を取り纏めて図書館へ発注手続きを依頼します。	電子資料は提供していません。	教員の希望調査を取って決めている	まずトライアルで図書館が紹介し、教員側から入れて欲しい、と希望のあったものを予算と勘案しつつ決定している。	電子ジャーナルについては、雑誌冊子体からの購読の代替に伴い、選定を行っている。また、DBとeBook及び新規の電子ジャーナルについては、教員から希望があれば、運営委員会で審議し、選定を行っている。	図書館委員会にて選定している。	学科単位で教員に予算内での購読タイトルの検討をしてもらい、その後図書館がコンソーシアムやパッケージでの購入を含めた調整をおこなっている。
1-1-2	いいえ	いいえ	いいえ	はい	はい	いいえ	いいえ
1-1-3	各学部内での利用頻度と購入金額等を重点的に関係教員が予測・検討し購入有無を決定しています。	価格です。	価格と教員の学生を含めた利用度(必要性)	広い分野にわたっていて、なるべく多くの利用が見込めそうなもの。	分野により購入数の偏りがあることと、電子資料の購入金額の圧迫が問題となっている。	利用頻度、コスト	予算が不足しがちになること。
1-1-4	特に電子ジャーナルおよびデータベースの購入金額が毎年高騰するため、図書購入予算に影響を与えています。そのため、これからは各コンソーシアム(PULC,JPLA他)の密なる情報交換と将来的には一本化が必要に思われます。				電子資料が多くなり、図書館内での管理が複雑になってきたことで、教員や学生に対してサービスの質が落ちないよう気をつけている。		
1-2-1	はい	いいえ	いいえ	いいえ	はい	はい	はい
1-2-2	学内ネットワークを利用し、図書館から各関係研究者へ情報発信を実施中です。(電子ジャーナル等も含む新刊案内)				毎年新任者向けのガイダンス(貸出等の図書館利用規程や資料の購入依頼など)を行うことで、図書館活用のPRをしている。	データベースに新機能が追加された場合などのお知らせ相互協力の案内	業者によるデータベースの利用講習会を実施している。
1-2-3	学生利用者を対象にした図書館PRの一環として映画鑑賞会を行っています。(毎月1回程度)			大学院が従来の講座制から次第に変化をさせているために、研究者によっては資料の取り寄せ方を熟知していない人が増えてきているように思う。一括して図書館活用PRというのではなく、研究者の分野ごとのきめ細かなPRが必要なのではないか、と思っている。	業者からの電子ジャーナルやDBの講習会を活用することで、研究者向けの図書館活用率をあげていきたいと思う。		
1-3-1	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい
1-3-2							学術雑誌論文、会議発表論文、テクニカルレポート、紀要、学位論文、教材、その他
1-3-3	図書館以外の部署で現在、著作権に関する諸問題について検討中です。		本学発行の紀要は図書館のホームページで公開している。経費負担が少なければ、学術機関リポジトリに参加したい。	4年ほど前に、教員に対して機関リポジトリの構築について、図書館から教員に原案を提出したことがあったが、会議で時期尚早であると否決された。教員の理解が必要と思う。	デジタル資料の管理や発信を行うための予算や人手不足が課題となっている。	本学独自の機関リポジトリの構築は、設備的に困難である。	コンテンツ収集
1-3-4	現在、他部署で「研究紀要」等の電子化を検討をしています。		全国的に組織された統一的な(Ciniiのような)学術機関リポジトリがあれば参加したい。	同じタイトルの雑誌で2000年以降はウェブ上で見られて、1999年以前はILJで複写依頼を出さないといけない、というのであれば、利用者にとって非常に使いやすい。構築して発行物をネットに上げればいい、というのではなく、もっと利用者のサイドに立つて便利のいいものでなければならぬと思う。	近隣の大学で協賛してリポジトリの開発を行い、学術情報などを公開できると研究者にとっては、よりよい環境設備ができていくといえる。広島地区のHARPについて、大変だったことや、課題などがあればぜひ教えていただきたい。		

第50回中国四国地区大学図書館研究集会アンケート集計結果

	鳥取大学附属図書館	島根大学附属図書館	岡山大学附属図書館	広島大学図書館	山口大学図書館	徳島大学附属図書館	
2-1-1	昨年の学術情報リテラシー教育の実施状況を教えてください。* 図書館主催のもの	15回 414名	29回 84名	100回 426名	80回 903名	16回 337名	18回 152名
2-1-2	昨年の学術情報リテラシー教育の実施状況を教えてください。* 授業と連携したもの	21回 1164名	19回 511名		74回 4991名	25回 521名	6回 95名
2-1-3	学術情報利用テキストを作成していますか？	いいえ	はい	はい	はい	いいえ	はい
2-1-4	パスファインダーを作成していますか？	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
2-1-5	学術情報リテラシー教育の推進にあたって、教員と連携した活動を行っている場合はその事例をご教えてください。		情報副読本「学術情報リテラシー」の編集・発行		初年時リテラシープログラム4種は大学プログラムあるいは授業の一コマとして実施(図書館ガイダンス・教養ゼミ「図書館利用案内」・情報活用基礎・オンデマンド講習会)	授業に図書館ガイダンスを組み入れていただくよう、情報処理分科会との連携を図ったり、各教員にお願いしている。	
2-1-6	ガイダンス等の担当にあたって館内で研修を行っていますか？	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
2-1-7	行っている場合は内容をご教えてください。		外部講師講習会の受講 講習会内容のプレプレゼンテーション	ただし、ベンダーの講習会と一緒に受講するなどには実施している。	(事前打ち合わせはしますが、特に研修は行っていません)		
2-1-8	学術情報リテラシー教育について、何かご意見等ありましたらご記入ください。	教員と連携してもっと教育支援ができないか検討中である。是非、他大学の事例を参考にしたい。					図書館単独で行うよりも講義の一環として開催できれば効果が高いと思うが、現在は行っていない。講義と連携している大学があれば現状(業務の負担など)をお伺いしたい。
2-2-1	資料の選定は主に誰が行っていますか？選定冊数が多い順に2つ選んでください。	教員 図書館職員	図書館職員 教員	教員 図書館職員	教員 図書館職員	教員 図書館職員	教員 図書館職員
2-2-2	いわゆるベストセラー的な図書は購入していますか？	はい	いいえ	いいえ	はい	はい	はい
2-2-3	学生による選書ツアー(ブックハンティング)を行っていますか？	はい	はい	はい	はい	いいえ	はい
2-2-4	授業用図書の別置をしていますか？	はい	いいえ	いいえ	はい	いいえ	いいえ
2-2-5	資料の選定について、何かご意見等ありましたらご記入ください。	意見というより、皆さんにお願いします。今年度から選書ツアーを実施する予定ですが、その際の留意点がありましたら、ご教えてください。		図書館員と教員の連携を密にすることが重要だと思います。	教職員の負担を軽減するため、有力な選書ツールについて情報が欲しい。	図書館開架購入雑誌の選定における、選定方法及び見直しの期間について教えてください。	図書の選定方針に沿って購入している。

第50回中国四国地区大学図書館研究集会アンケート集計結果

	鳴門教育大学附属図書館	香川大学図書館	愛媛大学図書館	高知大学総合情報センター(図書館)	海上保安大学校図書館	水産大学校	島根県立大学メディアセンター
2-1-1	12回 244名	67回 477名	44回 467名	33回 336名	0回 0名	0回 0名	25回 48名
2-1-2	4回 172名	22回 629名	25回 1633名	27回 874名	0回 0名	4回 200名	2回 30名
2-1-3	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
2-1-4	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
2-1-5	教員からの依頼により、大学院生および学部生の授業で「文献の探し方」について説明している。	教育学部人間発達環境課程1コマ、医学部博士課程は分館長の授業2コマ、看護研究1コマ、その他ゼミ単位で教員と連携して行っている。	教育・学生支援機構教育企画室の教員が作成する新入生向けテキスト「大学での学び入門」に図書館の項目を掲載していただき、このテキストを使用し、授業と関連した新入生のための図書館ガイダンスを行っている。	1年生向けガイダンスについては授業と連携して行っている。医学部4年生向けの授業の中で1コマ文献情報検索についての授業を行っている。			教員からテーマを提示してもらい、そのテーマに沿った学術情報リテラシー教育をオンデマンドで実施している(本年度は2回実施)。
2-1-6	いいえ	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
2-1-7			館内で情報リテラシー教育支援ワーキングを立ち上げ、新年度に実施する内容を協議している。				
2-1-8		学術情報リテラシー教育は係で担当していますか、それともチームで担当していますか。		講習会等を実施してもあまり人が集まらない。他館ではどのような工夫をされているでしょうか？			図書館主導のリテラシー教育は、参加者も少なく効果が薄い。来年以降は、オンデマンド形式に移行したいと考えており、他大学での実績を確認したい。
2-2-1	教員 学生	教員 図書館職員	教員 図書館職員	教員 図書館職員	教員	教員 学生	教員 図書館職員
2-2-2	いいえ	いいえ	はい	はい	いいえ	いいえ	はい
2-2-3	いいえ	はい	はい	はい	いいえ	いいえ	はい
2-2-4	いいえ	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ	はい
2-2-5							教員が推薦する資料は、学生にとっては専門的すぎ利用が少ない。にもかかわらず、ベストセラー的な図書以外の選書を司書が担うことは現状ではできない。他大学で司書がどれほどの選書権限を持っているかをお教えいただきたい。

第50回中国四国地区大学図書館研究集会アンケート集計結果

	岡山県立大学附属図書館	尾道大学附属図書館	県立広島大学学術情報センター図書館	広島市立大学附属図書館	下関市立大学附属図書館	山口県立大学附属図書館	香川県立保健医療大学図書館
2-1-1	1回 22名		10回 746名 <small>3キャンパス合計 新入生オリエンテーションを含む</small>	53回 586名	0回 0名	8回 449名	2回 95名
2-1-2	1回 38名	5回 約50名	16回 469名 <small>3キャンパス合計</small>	6回 426名	年に1回 534名 <small>参加人数はカウントしておりませんので、対象者となる学部1年生の人数を挙げています</small>	0回 0名	
2-1-3	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ	はい	いいえ
2-1-4	いいえ	いいえ	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ
2-1-5	なし						当学は学生数が少なく、学年ごとに担当教員が割り当てられている。その教員を通じてガイダンスの日程調整や周知を行なうため、学生の参加率が高い。
2-1-6	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
2-1-7							
2-1-8	特になし				職員と学生の間に温度差がある。		
2-2-1	教員 図書館職員	教員 図書館職員	図書館職員 教員	教員 図書館職員	教員 その他	図書館職員 教員	図書館職員 教員
2-2-2	はい	はい	はい	いいえ	はい	はい	はい
2-2-3	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
2-2-4	いいえ	はい	いいえ	はい	はい	はい	はい
2-2-5	特になし						

第50回中国四国地区大学図書館研究集会アンケート集計結果

	愛媛県立医療技術大学図書館	高知女子大学総合情報センター図書館	鳥取環境大学情報メディアセンター	岡山学院大学・岡山短期大学図書館	岡山商科大学附属図書館	岡山理科大学図書館	川崎医科大学附属図書館
2-1-1		2回 40名	0回 0名	0回 0名	4回 11名	11回 962名	
2-1-2	2回 137名	6回 215名	0回 0名	0回 0名	0回 0名	0回 0名	3回 250名
2-1-3	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	いいえ
2-1-4	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
2-1-5		学部の要請に基づいて、司書が授業として、1コマで情報処理教室で、図書などのネット検索の方法を教えている。					
2-1-6	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ		はい	
2-1-7						新入生向けの図書館オリエンテーションでは、説明内容を統一すべく、担当者で打合せおよび、練習を行っています。	
2-1-8		入学時に、図書館の利用方法ガイダンスを行うことと学部からの要請に基づくもののみで、大学にとっての図書館の位置づけに基づいた体系的な講習会などは、できていない現状です。					
2-2-1	教員 図書館職員	教員 図書館職員	教員 図書館職員	教員 図書館職員	教員 図書館職員	図書館職員 学生	教員 図書館職員
2-2-2	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ	はい	いいえ
2-2-3	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
2-2-4	いいえ	いいえ	いいえ	はい	はい	いいえ	いいえ
2-2-5		資料の選定も、ほとんどが教員の推薦図書方式で予算を消化しているため、職員の選定もあまり出来ておらず、学生の選書ツアーのフォローも出来ない状況です。					

内773名は新入生向け図書館オリエンテーションの参加者です。同じ日に複数回開催しても1回とカウントしていません。

第50回中国四国地区大学図書館研究集会アンケート集計結果

	川崎医療福祉大学附属図書館	吉備国際大学附属図書館	倉敷芸術科学大学図書館	くらしき作陽大学	山陽学園大学図書館	就実大学図書館	中国学園図書館
2-1-1	67回 1233名	1回 約550名 <small>学術情報リテラシー教育と言えるかどうかわかりませんが、オリエンテーションと併用しています。</small>		0	10回 272名		14回 約530名
2-1-2	2回 123名	6回 約120名		74回 458名 <small>51回340名新入生ガイダンス(対象:1年生) 23回118名文献探索演習(対象:3,4年生)</small>	8回 48名	38回 581名	2回 10名
2-1-3	はい	いいえ	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ
2-1-4	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
2-1-5	新入生ガイダンスは、各学科の図書館運営委員に日程の調整、学生への広報をお願いしている。参加率を各図書館運営委員に報告するため、参加率の悪い学科は、学科の要望で、再度、行う場合もある。3回行った学科がある。			◎「新入生ガイダンス」(対象:1年生)…新入生必修授業の時間をいただき、図書館の利用の仕方を館内ツアー型で説明(必修授業が後期から始まる)学科のみ、学生個人で予約のうえ各自受講。)日程、および教員の希望を事前に聞く。 ◎「文献探索演習」…年度初めに該当学科教員全員に、「文献探索演習」を図書館で行っている旨を文書にて配布。依頼のあった教員のゼミの学生に対して演習を行う。行う前に、演習時に使用するキーワードや、特に使ってほしいデータベースは何かなど、教員に確認。	ガイダンス等は授業時間をもらい、行っている。そのため、ほぼ100%の出席率である。また、2-3年生の文献探索はゼミの担当教員から例題等を出してもらっている。		ゼミ単位で基本的なOPACの使い方、文献検索法の指導
2-1-6	はい	はい	いいえ	はい	はい	いいえ	はい
2-1-7	ガイダンス等の原稿(シナリオ)の練習、機器操作の練習を実際にガイダンスを行う場所で担当者全員で行い、シナリオの修正等をしている。	マニュアル作成後、事前打合せ		先輩職員による聴講、指導	内容の確認、打ち合わせ等。新しい図書館職員には、実際に他の職員が行いながら、注意事項等の説明をする		打ち合わせ会議等を利用して、情報の共有化と話し合い。ウェブを用いた検索の方法等
2-1-8			来年度には、実施できるよう検討中です。	新入生ガイダンスに関しては、全員必須受講で、授業の時間をいただいているので、受講率が高い。文献探索演習に関しては、上述のとおり、依頼のあった教員ゼミの学生にしか行っていないので、受講していない学生は、卒業論文作成にあたって不利となり、すなわち、図書館の活用の方を知らないまま卒業する学生を生むこととなっている。新入生ガイダンス同様、全員必須受講とした方がよいのではないかと考えるが、担当職員の時間の確保とレベルが追いつかない。また、ガイダンスにあたっては、より多くの職員が行えるようになること、質を同一化すること、演習にあたっては、日々変化しているデータベースの利用の仕方など、担当職員が常に学習していかなければならないと痛感している。	授業時間をもらって行うため、教員によっては拒否される。できれば全学生必修の授業科目を設け、そのコマをもらえたらと思う。		
2-2-1	教員 図書館職員	図書館職員 教員	教員 図書館職員	図書館職員 教員	教員 図書館職員	教員 図書館職員	教員 図書館職員
2-2-2	はい	はい	いいえ	いいえ	はい	はい	はい
2-2-3	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい
2-2-4	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	いいえ	はい
2-2-5			特にありません。	その他、学生購入希望の受付、学生図書委員による選書を行っている。	教員が主体のため、学生用図書の選定にあまり関心がない教員の分野は資料が少なく、蔵書に偏りが出る。		専門書であっても、教員・図書館職員の目線と学生の目線では違いが否めません。どちらかに偏るといふより、双方の要望に応えられるようバランスを取っていくことが必要かと思えます。

第50回中国四国地区大学図書館研究集会アンケート集計結果

	ノートルダム清心女子大学附属図書館	美作大学附属図書館	環太平洋大学附属図書館	広島文化学園大学図書館	日本赤十字広島看護大学	比治山大学図書館	広島経済大学図書館
2-1-1	10回 45名	0回 0名	1回 300名	18回 18名	42回 549名	0回 0名	22回 233名
2-1-2	32回 312名	23回 132名	0回 0名	19回 178名	8回 71名	39回 228名	71回 817名
2-1-3	いいえ	いいえ	いいえ	はい	はい	いいえ	いいえ
2-1-4	いいえ	いいえ	いいえ	はい	いいえ	いいえ	はい
2-1-5	文献(雑誌論文、新聞記事)検索のガイダンスは、学科の必須科目の中での実施を依頼されることが多くなった。	全学的に初年次教育の一環として開講している一年次セミナーのゼミにおいて、セミナー担当教員と連携を取り、図書館ガイダンスとして1コマを使って、図書館資料の検索や図書館が提供しているオンラインデータベースなどの紹介と利用実習を行っている。		学年別ゼミの授業を1コマいただいて、卒業研究などゼミの内容に沿った情報検索を行っている。	今年度から、必修授業の一コマを、基礎ゼミⅠ(1年生)は、図書館徹底活用術としてOPACを、基礎ゼミⅡ(2年生)はデータベース徹底活用術として医中誌やCINIを紹介し、端末実習を実施している。また、3年生の看護研究は、11月に2コマを、「文献検索は今!文献入手徹底活用術」として、具体的な入手方法までを紹介と実習する予定である。	授業の中で図書館の利用方法の時間があり、教員の依頼によって図書館で利用指導をしている。	無し
2-1-6	いいえ		いいえ	はい	いいえ	いいえ	はい
2-1-7				利用のための配布資料をもとに口頭説明			電子ジャーナルやデータベースの利用方法の研修
2-1-8					図書館主催で空き時間に実施するには限界がある。特に本学は看護系のためたくさんのカリキュラムが必修となっており、空き時間はグループワークの時間となり、実質の空き時間がほとんどない現状である。そのため、授業と連携をとった今年度からの実施方法は、学生にとって負担なく図書館に親しんでもらえる効果も期待している。		ガイダンス後の図書館利用を活性化するため、授業と連携していくことが課題。
2-2-1	教員 図書館職員	図書館職員 教員	教員 図書館職員	教員 図書館職員	教員 図書館職員	図書館職員 教員	教員
2-2-2	いいえ	はい	はい	はい	いいえ	いいえ	いいえ
2-2-3	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい
2-2-4	はい	いいえ	はい	はい	はい	いいえ	いいえ
2-2-5					本学では、専門書以外の、ベストセラーや娯楽雑誌、漫画や娯楽系DVD等は、「保護者の会」寄贈という形をとり、学生のアンケートを反映した蔵書構成を構築し、図書館の中での癒し空間を実現している。	本来は教員が資料選定をすることになっているが、多忙な教員の補助をする意味で職員がしている。選定に当たっては、授業内容と学生の要望を一番に、全体の蔵書構成を考えている。	無し

第50回中国四国地区大学図書館研究集会アンケート集計結果

	広島工業大学附属図書館	広島国際大学図書館	広島国際学院大学図書館	広島修道大学図書館	広島女学院大学図書館	広島文教女子大学	福山大学附属図書館
2-1-1	3回 20名 ※新入生オリエンテーション…約1,000名 / 随時…約90名	8回 51名	0回 0名	0回 0名	11回 66名	2回 20名	1回 新入生
2-1-2	2回 40名	9回 275名	0回 0名	110回 2171名	36回 1058名	2回 600名	21回 252名
2-1-3	はい	はい	いいえ	はい	はい	はい	はい
2-1-4	はい	いいえ	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ
2-1-5	今年度より、講義(1コマ)で情報検索、著作権等、図書館利用指導を行っています。	教員からの依頼により、チュートリアル、ゼミ単位で、教育を行っている。			新入生全員を対象としたガイダンスを講義時間内で行っている。クラス別に内容を検討し教員と連携したガイダンスを行っている。	昨年度は、図書館委員会を通じてガイダンスの案内を行い、各ゼミからの依頼を受けて随時利用教育を行いました。	特に無し
2-1-6	はい	いいえ	いいえ	はい	いいえ	はい	はい
2-1-7	情報検索ツール(Cinii等)の利用の仕方等、これからも随時行っていく予定			ファーストイヤーセミナー(初年次教育科目)の中にある図書館ツアーについては、大学院生・学部学生をアルバイトとして依頼している。その際、事前研修を実施している。	参考担当者が行うガイダンスを新人職員が見学し、新人の行うガイダンスを参考担当者が見学し、問題点を話し合うという方法をとっている。	補助職員が、専任の担当者のガイダンスに参加して実際の対応を学んだり、初回基礎編を担当して、専任からの指導を受けたりしています。	館員の当番制にて実施しており、マニュアルも有る。
2-1-8	—					コアな業務と認識していますが、専任職員数激減や非常勤職員の入れ替わり等が相次ぎ、なかなか進化させていくことが出来にくい状況に悩みを抱えています。	特に無し
2-2-1	図書館職員 学生	教員 図書館職員	教員 図書館職員	教員 図書館職員	教員 図書館職員	図書館職員 教員	教員 学生
2-2-2	はい	はい	はい	はい	はい	いいえ	はい
2-2-3	はい	はい	いいえ	はい	はい	はい	いいえ
2-2-4	いいえ	はい	はい	はい	はい	いいえ	はい
2-2-5	—				専任教員が主になって選定されるため、非常勤講師の科目の図書を選定ができていない。選書には職員が積極的に関わり教員に情報の提供をすることが重要と思われる。	蔵書構成上の選定を図書館委員会から委託され、学生の共通教養資料の選定も行っています。今後も、図書館業務中のコア・コンピタンスと位置付けて図書館職員の専門性を維持していきたいと思っています。	特に無し

第50回中国四国地区大学図書館研究集会アンケート集計結果

	安田女子大学図書館	近畿大学工学部図書館	東亜大学附属図書館	徳山大学図書館	梅光学院大学図書館	山口福祉文化大学附属図書館	四国大学附属図書館
2-1-1	20回 670名	6回 約50名	0回	0回	0回	0回	
2-1-2	16回 308名	12回 約560名	0回	0回	10回 約100名	2回 40名	
2-1-3	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	いいえ
2-1-4	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
2-1-5	文献調査がイベントでは教員と事前に打ち合わせし、資料や情報の提供を決め、がイベントを実施する				行っているのは、3・4年のゼミ。卒論制作のための資料収集方法を、ゼミ担当教員と打ち合わせて行っている。		
2-1-6	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	
2-1-7	デジタルオンライン、JJI-Webなどの操作手順						
2-1-8	学生には新入生がイベント、文献調査がイベントを通して教育しているが、教員へのイベントができていない				教員の授業にどこまで食い込んでいくか、また必要としている教員と必要としていない教員の温度差がある。		
2-2-1	教員 図書館職員	図書館職員 学生	教員 学生	教員 図書館職員	教員 図書館職員	教員 図書館職員	教員 図書館職員
2-2-2	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
2-2-3	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	いいえ	いいえ
2-2-4	はい	はい	いいえ	はい	はい	いいえ	はい
2-2-5	新学部設置による新分野の選定は難しい。学科の図書館運営委員の教員や学科教務職員、学科助手との連携が必要と思われる				特にありません。		

第50回中国四国地区大学図書館研究集会アンケート集計結果

	徳島文理大学図書館	四国学院大学図書館	高松大学附属図書館	聖カタリナ大学附属図書館	松山大学図書館	松山東雲女子大学・松山東雲短期大学図書館	高知工科大学附属情報図書館
2-1-1		0回	3回 235名	3回 25名		238名	1回 18名
2-1-2	1回 20名	3回 60名	7回 235名	6回 180名	51回 1956名	—	34回 421名
2-1-3	いいえ	いいえ	はい	いいえ	はい	はい	いいえ
2-1-4	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
2-1-5	心理学の教員と館員が協力して卒業論文の作成指導を実施した		本学では大学・短大の新生全員に対して必須の授業時間の1コマを「情報探索法—大学図書館における情報収集—」として演習授業を実施している。	新生対象のゼミの中で、学生全員各自にひとりずつ図書館で図書を(現物)探させて、その書誌情報・内容について問う課題を出している。	教員と連携し、ゼミ内容に合わせて、ガイダンス資料や課題の内容を決めている。	ガイダンス実施のお知らせをメールにて教員に送付し、ゼミ単位で実施	
2-1-6	いいえ	はい	いいえ	いいえ	はい	いいえ	いいえ
2-1-7		ガイダンスの進め方を事前に確認しています。		ただし、国立情報学研究所の「情報リテラシー担当者研修会」に参加させていただき、どういふふうにすればよいか、を学ぶ機会はいただいている。	ガイダンスの様子をビデオで撮影し、自分を客観的に見たり、他者から意見をもらい、改善に努めている。		
2-1-8		インターネットに寄りかからないリテラシー教育を模索中です。	新生全員には利用指導を実施しているが、在学生に対しての卒論やレポートのための文献検索等は、教員からの要望があれば実施し、全学的には実施していない。他館の実施状況を参考にしたい。	学生にいきなり「文献検索」とか「学術情報」と言っても、拒絶反応を起こす場合が多いので、学生の実態をよく見て、図書館側もそれに合った表現やコースに合わせて指導したり、呼びかけを行う必要があると思う。			
2-2-1	教員 図書館職員	教員 図書館職員	教員 図書館職員	教員 図書館職員	教員	教員 図書館職員	教員 図書館職員
2-2-2	いいえ	はい	はい	はい	はい	はい	はい
2-2-3	いいえ	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	いいえ
2-2-4	いいえ	いいえ	いいえ	はい	はい	はい	いいえ
2-2-5	限られた図書予算のため、電子ジャーナルの購入金額の高騰が毎年学内で問題になっています。		教員の選定については、学科・教員により温度差があり、それが選書に反映されるため選書全体のバランスが取りにくい。それを是正するためにも、学生の選書・リクエストは重要である。	ベストセラー的な図書はあくまで、本学学部学科に関連したものであれば買う。そうでないものは購入しない。			

第50回中国四国地区大学図書館研究集会アンケート集計結果

	鳥取大学附属図書館	島根大学附属図書館	岡山大学附属図書館	広島大学図書館	山口大学図書館	徳島大学附属図書館
2-3-1 館内に飲食可能なスペースを設けていますか？	はい	いいえ	はい	はい	いいえ	はい
2-3-2 館内飲食について貴館の見解について教えてください。以前と比べて変化がありましたか？	現在耐震改修工事中で仮設図書館として小さな建物でスペースがない為、食事のできるスペースは設けていないが、基本的には、蓋の開まる容器に入った飲み物はPCなどの機器付近以外はOK。軽食は決められたスペースでOKとしている。そのように変更してから、それ以外の場所での食事が減った。		当館では、飲み物だけを許可していますが、飲み物が利用できるエリアを設置したことにより、違反している利用者に注意しやすくなった。利用者には「閲覧室は飲食不可」が意識されるようになったのか利用マナーが多少向上したように思われる。	蓋付き飲み物限定で、飲み物が飲めるエリアを設けたが、相変わらず、席で飲み物を飲む学生が多い。館内全体への変更、場所増加は今後の課題である。	飲食物の持ち込みが多いので、蓋のできる容器(ペットボトル等)に入れた飲み物については黙認している。	飲食は可能とするが、場所は限定する。掲示・放送等で案内するほか、他の場所で飲食していた場合、口頭注意する。
2-3-3 館内で利用者(学内者)が自由に利用できるパソコンはありますか？	はい	はい	はい	はい	はい	はい
2-3-4 あればその台数をご教えてください。	40		64	20	110	50
2-3-5 上記のパソコンで学外者が自由に利用できるものはありますか？	はい	いいえ	いいえ	はい	いいえ	はい
2-3-6 ラーニングコモンズに該当するコーナーはありますか？	いいえ	いいえ	はい	いいえ	いいえ	はい
2-3-7 あればその運営体制をご教えてください。			開館時間内は利用可。飲のみ可。食は不可。飲料自販機設置。学内利用者のみ無線LAN利用可。共同討議可。17年度～20年度前期までLibrary hoursという講義が週3回開講されていた。	計画中である。		運営体制については今後検討する予定。
2-3-8 書庫の狭小化対策で何か行っていましたらご教えてください。	複本の冊数、受入後の年数を基準に除籍、電子ジャーナルのバックアップを購入し、相当する雑誌を廃棄している。	重複本の除籍・リユース市・廃棄紀要等で電子化された逐次刊行物については受入中止、または廃棄	狭小化検討WGを設置・検討している。また、多数重複所蔵している資料の除却を進めている。その他、E-Bookの導入も一部推進している。	重複資料の計画的除却、EJバックアップの導入。電動集密書架増設。コレクション管理担当を新設し全館蔵書収蔵体制を検討、廃棄処理も進めている。	対策の一環として、重複資料の廃棄などを進めている。また、書庫増築に向けた予算要求活動を行っている。	昨年耐震・改修工事があったが、増築がなかったため、書庫スペースの確保に苦慮している。今後は、重複資料等の処分を進め、購入資料の精査(重複資料を購入しない)等を実施する。
2-3-9 環境整備について、何かご意見等ありましたらご記入ください。			資料活用以外の部分での利用が増えている。そのため利用者の要求も様々ものとなっているため、図書館内における目的別分離も必要と考える。	*学外者パソコン: 接続処理は館員、セキュリティのため接続者記録を記入してもらっている。 *環境整備中。狭小化対策以外の状況記述は中央図書館についてである。	利用者のニーズに合わせ、個別学習机等の設備整備や空調増設などを行っている。	耐震・改修工事により、壁が増え、窓面積が少なくなったので、照明をつけると昼でも暗いのが難点である。

第50回中国四国地区大学図書館研究集会アンケート集計結果

	鳴門教育大学附属図書館	香川大学図書館	愛媛大学図書館	高知大学総合情報センター(図書館)	海上保安大学校図書館	水産大学校	島根県立大学メディアセンター
2-3-1	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
2-3-2	飲み物のみ許可しているスペースを2009年1月に設けた。	中央館では休憩室のみで飲食許可。分館ではドリンクコーナーのみで飲み物のみ許可、または原則禁止。変化無し。	館内は全面飲食禁止であるが、健康管理上、ペットボトル等ふた付き飲料による水分補給は許可している。ただし、飲用後は、すみやかにかばん等にしまうように巡回・指導している。	やはり閲覧スペースでの飲食はやめて欲しい。館内に飲食スペースを設けている館に状況をお聞きしたい。	館内での飲食は禁止しています。	館内では原則飲食は禁止ですが、ペットボトルを使っているのを見かけても見ぬりをしている。	ペットボトル等の持ち込みについては恒常的に見受けられる。口頭、掲示、メールなどでの注意も効果がない。飲食可能なスペースを設けることで、閲覧室での飲食がなくなる効果があるどうか、ご教授いただきたい。
2-3-3	はい	はい	はい	いいえ	いいえ	はい	はい
2-3-4	32	64	20		0	4	60
2-3-5	はい	はい	いいえ		いいえ	はい	いいえ
2-3-6	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
2-3-7	①図書館エントランスホール(1F)は自由に利用可能 ②2つのセミナー室(2F)はカウンターで申込みが必要						
2-3-8	・重複資料、劣化の激しい資料、汚損・破損資料の廃棄 ・開架の書架に棚板の増設、木製書架から収容力が高いスチール書架への入れ替え ・平成21年度末に館外に保存書庫を設置する。(利用予定がない学内のポイラー室を改修し、書架を設置予定)	書架の増設。 重複本の別置。 古い寄贈雑誌、重複図書、電子ジャーナルバックファイル購入雑誌の廃棄。	書庫収納スペース確保のために、定期的に重複図書及び不用図書の廃棄や除籍を行っている。	複本、買取の電子ジャーナル分の雑誌の廃棄。		古雑誌などの保存年数を少なくして、それを超えるものは廃棄処分している。いずれ図書について処分するかどうかの問題が起きてくる。	寄贈資料の受け入れ基準、資料の廃棄基準を策定する予定である。
2-3-9		予算の制約が大きい。					飲食スペース、ラーニングコモンズどちらを整備するにしても、現在の建物では大規模な改修と予算が必要である。費用対効果、また整備後の見直しを立てるにはどのようにすればよいか検討したい。

第50回中国四国地区大学図書館研究集会アンケート集計結果

	岡山県立大学附属図書館	尾道大学附属図書館	県立広島大学学術情報センター図書館	広島市立大学附属図書館	下関市立大学附属図書館	山口県立大学附属図書館	香川県立保健医療大学図書館
2-3-1	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
2-3-2	館内が狭い等により、資料の調査、研究等での活用を優先し、飲食スペースは設けておらず、館内飲食禁止。(比較的近くに食堂や売店がある)。以前と比べて変化なし。	閲覧スペースと完全に分かれている場所であれば、飲食コーナーを設けてもよいと思いますが、現状では、スペース的に不可能な状態です。	年々、館内飲食がひどくなっている。口頭で注意したり、ポスターを掲示しているが効果なく、学生側に「図書館では飲食禁止」という意識がなくなっていると感じる。今後は条件付(飲食可能スペースの確保、蓋つきの容器なら持ち込み可等)で飲食を許可することも検討する必要があるかもしれない。	フタ付きの飲み物を日常的に持ち歩く習慣が一般化してきたため、館内での利用を制限するのが難しくなってきている。	試験期間中は普段利用しない学生が多く来館するため、飲食物の持ち込みが増加するが、掲示や定期的な見回り等で若干改善された。	以前と同様に館内飲食については禁止としている。飲食コーナーを設けたいが、スペースの問題から設置は困難な状況である。	飲食禁止。ただし、密閉できる容器の場合は、持ち込んでも構わない。
2-3-3	はい	はい	はい	はい	いいえ	はい	はい
2-3-4	14 ネットサーフィンできるパソコン14台、 文書作成用(ノートパソコン)16台	10	73 3キャンパス合計 インターネット 利用のみの台数も含む	21		15	3
2-3-5	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	はい
2-3-6	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
2-3-7							
2-3-8		研究室・共同研究室への分置をおこなっています。				蔵書を見直し、現在の学部学科構成に沿わない古い図書については、積極的に除籍を行っている。	蔵書数も少なく、現在のところ書庫内はゆとりがある。
2-3-9							

第50回中国四国地区大学図書館研究集会アンケート集計結果

	愛媛県立医療技術大学図書館	高知女子大学総合情報センター図書館	鳥取環境大学情報メディアセンター	岡山学院大学・岡山短期大学図書館	岡山商科大学附属図書館	岡山理科大学図書館	川崎医科大学附属図書館
2-3-1	いいえ	いいえ	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ
2-3-2	館内での飲食は禁止している。開館以来、変わっていない。	飲食スペースを別に設置する余裕がない。また、パソコンの設置がある以上、一定の飲食を認めると菌止めが利かなくなり、パソコンの前で自宅と同じように、使用しながら飲食することが想定され、認めがたい。	館内での飲食は原則禁止しており、今後も担当課より「飲食可」とするための検討を実施する予定はない。	入館者が増加している		館内での飲食は禁止していますが、なかなか守られていないのが現状です。	同一建物内の1階上の階に飲食スペースがあるので図書館に設ける予定はない。
2-3-3	いいえ	はい	いいえ	はい	はい	いいえ	はい
2-3-4		5		23	20		6
2-3-5	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ		いいえ
2-3-6	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	いいえ	いいえ
2-3-7							
2-3-8	重複している資料等の除籍を行っている。	古い資料の廃棄処分を積極的に進め、新しい資料のスペースを確保していく。	特定の分野の図書が配架してあるエリアでは、狭隘化が進んでいるが、現時点では特に対策を行っていない。			数年前より、古い理工系の図書で利用の無くなったものについては、保存した方がよいかどうか教員の意見を聞き、保存不要ものは廃棄を始めました。	
2-3-9		予算がマイナスシーリングの中で、予算を伴わない環境整備には、限界が来ている。	本学では学生1人1台PCを所持しており、そのPCを閲覧室の各座席で利用できる環境を実現しているが、静かに書籍を利用したい学生と、パソコンでゲーム等に興じている学生とが入り混じって座っている状況である。飲食可能なエリアを設けている館も増えてきており、利用形態に応じた閲覧スペースの仕切り等について検討する必要性も感じている。				

第50回中国四国地区大学図書館研究集会アンケート集計結果

	川崎医療福祉大学附属図書館	吉備国際大学附属図書館	倉敷芸術科学大学図書館	くらしき作陽大学	山陽学園大学図書館	就実大学図書館	中国学園図書館
2-3-1	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい
2-3-2	飲食は、厳禁です。		口頭注意や掲示などで対応していますが、特に夏期は飲料を飲んでいるケースが多く、見回りの回数を増やすなどの検討をしています。	当館では、「図書館は図書・楽譜・視聴覚資料など、学園の貴重な共有財産が置いてある場所、そこでの飲食は、資料汚損の原因となる可能性が有り得る」とし、館内での飲食は一切禁止している。館内に、新たに設置可能なスペースも無いので、今後も飲食可能スペースを設ける予定はない。そのように、禁止していても飲食をする学生は多かったが、今年度より、毎日1時間おきの館員による交代で館内巡回を行うようにした結果、以前より飲食(その他マナー違反含む)は減少したと自負している。	場所の確保が難しく、現状のままでは行えない。	コーナーを設けたいとは思っているが、良い場所が館内にはないので難しいと考えています。	基本的に飲食は許していませんが、飲食スペースを設けたのはペットボトルを持ち歩くのが普通になってしまった世代に対して、やんわりと、飲食が出来る場所とそうでないところがある、というけじめを付けてもらうための試みでもあります。
2-3-3	いいえ	はい	いいえ	はい	はい	はい	はい
2-3-4		約30		11	6	9	8
2-3-5	いいえ	いいえ	いいえ	はい	はい	はい	はい
2-3-6	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
2-3-7							
2-3-8		空いた雑誌架を書架に修繕	除籍基準の策定や、閉架書庫を整理、有効活用などを計画中です。	劣化資料、汚損資料、不要となった資料(データベースで閲覧可能となり、不要となった新聞縮刷版など)の除籍処理。	昨年大幅な除籍を行った。また、洋雑誌の一部を電子ジャーナルに変更した。		書庫そのものがないので、書庫の増設が課題です。
2-3-9			特にありません。		予算の確保が困難。毎年要求を出すのが、なかなか認めてもらえない。学生にもいろいろな場で図書館の環境整備をしてほしいという要求を出してもらおうよう、頼んでいる。		

第50回中国四国地区大学図書館研究集会アンケート集計結果

	ノートルダム清心女子大学附属図書館	美作大学附属図書館	環太平洋大学附属図書館	広島文化学園大学図書館	日本赤十字広島看護大学	比治山大学図書館	広島経済大学図書館
2-3-1	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
2-3-2	スペースに余裕があれば、設けてもよいかと思うが、現状ではまったく余裕はない。したがって現在、館内では飲食は禁止である。	飲食コーナーは必要と思いますし、学生のホットコーナーとしての位置づけも必要と思っております。1年もたっておりませんし、スペースも狭く比較はできませんが、学生の利用は多いです。	館内飲食禁止との内容を館内に掲示し、入館の際注意をするにもかかわらず、館内飲食の学生は減りません。悩みの種です。	特に変化なし。注意すればおさまる範囲内。	館内は、飲食禁止。なぜ、飲食禁止なのかと、掲示へ理由(飲み物や食べ物のカスは、ダニやゴキブリ等の発生を招きます。図書館の本や雑誌、机や椅子、パソコン、学習室等はみんなで使うもので、皆さんの後輩、次世代に伝えていくものです。そんな図書館にあるあらゆるものを、ダニやゴキブリ等の棲み家にしたくない……)と学生の心に訴えて協力を求めている。教力所のゴミ箱を1箇所のみとし、このゴミ箱に前述の掲示をしている。	一時ペットボトルの持込を許可したが、ナダレ式に館内での飲食が増え、まるでラウンジのような状態になった。現在、館内での飲食は禁止している。飲食できるスペースを確保できるほどの広さが図書館にはないので、飲食を許可する予定はない。	原則は飲食禁止だが、館内に製水機等を設置していないため学生が滞在して学習する環境ではなかった。一昨年から方針を変更し、滞在型の図書館の実現を目指してペットボトル等、蓋のできる容器に入ったものであれば館内で飲んでも良いことにしている。(書架やパソコン周辺は禁止)
2-3-3	はい	はい	いいえ	はい	いいえ	いいえ	はい
2-3-4	7	13	0	9			81
2-3-5	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ		はい
2-3-6	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ		いいえ
2-3-7							
2-3-8		複本の除籍	新聞の保存期間を制定後、整理がやっと進んでいる状況です。	苦慮している。組織の改編(短期大学の終了など)のタイミングで除籍を行っている。	まだ、50%くらいしか蔵書がない。	重複圖書の廃棄 汚損圖書の廃棄 不要圖書の廃棄	一昨年に書庫の増設をしたため、現在のところ狭隘の心配はない。
2-3-9					きれいな環境であれば、学生は汚すことを躊躇する。また、掲示は、学生の心に訴える文面とするよう心がける。	狭い図書館を色々やりくりして、本来の図書館利用者が居心地の良い図書館になるよう工夫している。一時期利用者は増えたが、マナーの悪い利用者が増え指導に追われた。現在もその状態は続いているが、本来の図書館利用のあり方を今一度考え、ラウンジのような図書館より、読書・学習のための図書館に立ち戻ろうと思っている。	蔵書構成や図書館の在り方に影響が出ない限り、利用しやすい環境整備を積極的に進めたいと考えている。

第50回中国四国地区大学図書館研究集会アンケート集計結果

	広島工業大学附属図書館	広島国際大学図書館	広島国際学院大学図書館	広島修道大学図書館	広島女学院大学図書館	広島文教女子大学	福山大学附属図書館
2-3-1	いいえ	いいえ	はい	はい	はい	いいえ	いいえ
2-3-2	近く、一部飲食スペースを設ける予定です。	ペットボトルの普及により、飲食の飲を取り締まるのは難しい。例え飲んでいたとしても、現場を確認出来なければ、「鞆に入れましょう。」としか指導していない。	図書館を身近に感じ、入館者数が増えた	図書館内に独自の喫茶スペースを設けているが、近年益々閲覧席でのペット・ボトルやお菓子などの飲食が目立ってきている。ライブラリー・ニュース等を通じて、広く学生達に、マナー問題について啓示しているところである。	新図書館建築時に飲食コーナーを設けたので、旧図書館と比較では場所が広がった分、人目に届かない場所での飲食を見かけることがある。ルールを守り、飲食コーナーで飲食している学生もいるが、時折グループ演習室などでペットボトルなどを口にしてる学生を見かける。館内に「飲食厳禁」や「なぜ館内で飲食してはいけないか」等の案内を掲示することで多少少なくなった気がするが、実態は不明。注意するとき心が萎えることもあるが、職員として言い続けなければならないと思う。	コンパクトな校内なので、飲食可能な場所はすぐ近くいくつかあります。図書館の、資料と向き合う場所としての機能への理解及びTPO教育の一環として姿勢の変化はありません。	館内への飲食ブースの設置が可能であれば行いたい。
2-3-3	はい	はい	はい	はい	はい	いいえ	はい
2-3-4	23	58	3	88	99	80	17
2-3-5	いいえ	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい
2-3-6	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
2-3-7	職員が在住しない形で、学部毎に初年次を対象としたテキストに準じる図書等を配架、貸出不可(図書館の対象図書で貸出)						現在検討中
2-3-8	定期的な除籍作業	利用頻度の少ない図書を書庫へ移動。雑誌の冊子体から電子ジャーナルへ移行。	集密書架を増設することで対応。図書館以外の場所に書庫を設ける。		2004年に新図書館が建築され、2009-2010年度で各書棚の棚を1段増加し、収容冊数の増加を計画的に行っている。	複本に限って、背に赤シールを貼付し、OPAC上の所在変更を行って、倉庫的に使用している書庫内に収納しています。時期を見計らって廃棄対象となります。	特に無し
2-3-9	—				目の見えない利用者に、放送設備以外でどのような環境整備が行われているか他大学の状況を教えていただきたい。	特にありません。	特に無し

第50回中国四国地区大学図書館研究集会アンケート集計結果

	安田女子大学図書館	近畿大学工学部図書館	東亜大学附属図書館	徳山大学図書館	梅光学院大学図書館	山口福祉文化大学附属図書館	四国大学附属図書館
2-3-1	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
2-3-2	アンケート等では学生の要望が多いが、ゴミ処理の問題や閲覧席の景観がどのようになるのかなど課題も多く歩み切れない	当館は飲食禁止となっているが、隠れて飲んでいる利用者も多く、注意しても少なくならない。以前と比べると若干マナーも悪くなっており、ゴミなどをそのままにして帰る利用者もいる。	飲食物の持込を禁止し、鞆の持込も制限している。	館内は飲食禁止となっているが、持ち込んで飲み残しをそのまま放置したり等のマナーの低下が近年目立ってきている。	飲食物の持ち込みは一切禁止している。	図書館ロビーでの飲食は可能なので、そちらを利用するように指導している。	
2-3-3	はい	はい	はい	はい	いいえ	はい	はい
2-3-4	50	15	8	2		2	14
2-3-5	はい	いいえ	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ
2-3-6	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
2-3-7	教務部の管掌で運営						
2-3-8	廃棄と図書館外に別置倉庫を設置	現在のところは特に行っていません	学内の他の空きスペースを利用する。	閉架書庫に余裕がなくなれば、複本は閉架書庫に配架するようにしている。	購入図書選定の見直し(重複図書・検定問題集・教科書は購入しない)。紀要受入の中止。		
2-3-9	ノートパソコンの導入によるフリースペースの無線LANの環境整備				特にありません。		

第50回中国四国地区大学図書館研究集会アンケート集計結果

	徳島文理大学図書館	四国学院大学図書館	高松大学附属図書館	聖カトリック大学附属図書館	松山大学図書館	松山東雲女子大学・松山東雲短期大学図書館	高知工科大学附属情報図書館
2-3-1	いいえ	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
2-3-2	毎年マナーが悪くなっているため館内巡回の回数が増えているのが実情です。	予算の関係で基本図書を増えにくくなりました。	長時間図書館を利用する学生が増えたため、飲食物を持ち込む学生が増加した。館内または周辺に飲食場所がないので、飲食可能なスペースを設けた。まだ、周知が徹底せず、閲覧室内で飲食する学生も多い。	やはり資料を汚されては困るので、飲食は禁止。		原則として、飲食は禁止しているが、ペットボトルなど蓋のできる飲料物については持込を許可する方向である。	館内飲食については「一切禁止」の方針で変わるなど蓋のできる飲料物については持込を許可する方向である。
2-3-3	はい	いいえ	はい	はい	はい	はい	はい
2-3-4	200		22	23	42	24	20
2-3-5	いいえ	いいえ	はい	はい	はい	はい	いいえ
2-3-6	いいえ	いいえ	はい	いいえ		いいえ	いいえ
2-3-7	図書館内にはありませんが、他の建物には自販機、学習机、コピー機等設置しています。		閲覧室の一部を要望があれば授業やゼミなどに開放している。				
2-3-8	購入中止による自然科学系の学術雑誌(冊子体)専用書架を館外で有効利用し図書専用書架との入れ替えを計画中です。	新館を建設して一応先延ばしすることができました。	雑誌は保存期間を決めて処分している。また、図書等の備品についても除籍規程を設けて、保存価値がないと判断されたものは処分している。	冊子体の洋雑誌の講読を中止し、すべてネットで閲覧する方法に替えた。	洋雑誌冊子の電子ジャーナル化や複本の除籍などの対策を行っている。	受入停止紀要論集の処分	オンライン版で購入できる雑誌や書籍がある場合にはオンライン版を優先し、冊子体での購入は控えるようにしている。
2-3-9	本学も学生利用者の減少が続いていますが、当館では飲食可能なスペースは図書館以外の建物に設置し、館内はあくまで「学習の場」としての役割を中心に考え、飲食は厳禁としています。	新館を建設した際概ね解決させました。					

注 但し、本大学はOPAC検索用にパソコンを導入しているため、アプリケーション機能のついたパソコンはありません。